

カナダ -政策金利据え置き-

<政策金利を据え置き>

12月7日、カナダ中央銀行は政策金利を0.50%に据え置くことを決定しました。現在の金融緩和政策スタンスは依然として適切としています。

声明文では「カナダ経済は、2016年上期の停滞の後の第3四半期は力強く回復し、第4四半期はやや減速するという中央銀行の予想通りに推移している」と指摘しています。ただ、雇用創出は継続しているが、米国とは対照的にカナダの労働市場には依然として弱さが見られるとも指摘しています。

インフレ率については足元で上昇しているが、食品価格の下落により予想を下回って推移しているとしています。

<カナダドルは上昇>

政策金利の据え置きは市場予想通りでしたが、声明文からリスクバランスに関する文言が削除されたことから利下げの可能性が後退したと受け取られ、カナダドルは上昇しました。

12月7日の海外終値は、1米ドル=1.3234カナダドル、1カナダドル=85.96円となっています。

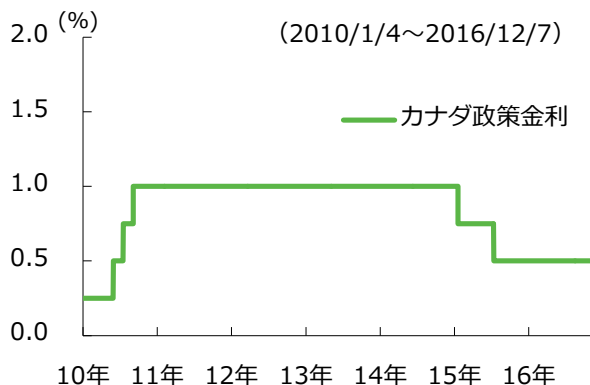
<今後の見通し>

カナダ経済については、2016年前半は山火事の影響などにより一時的に停滞しましたが、7月に開始した子供手当支給による消費の喚起やインフラプロジェクトによる設備投資の押し上げが期待、引き続き緩やかながらも回復の方向に向かうと見込んでいます。

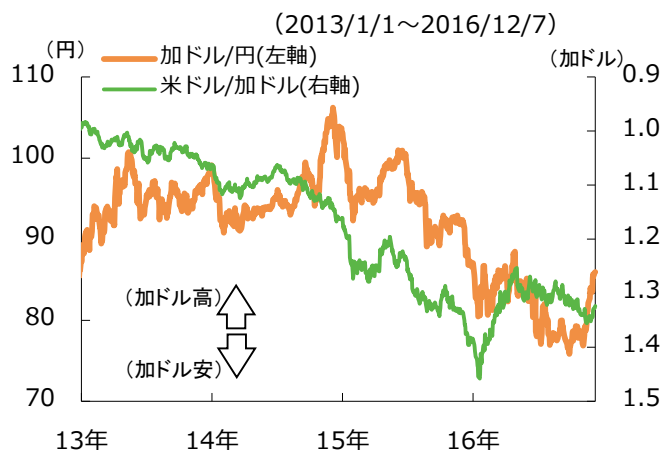
トランプ氏は公約でNAFTA（北米自由貿易協定）の見直しを掲げており、カナダ経済にとってのリスク要因となります。ただ、トランプ氏が掲げる米国経済の成長重視の政策は、隣国カナダの経済にとってはプラスの影響をもたらすとの見方もあります。

カナダ経済の回復と、OPECの減産合意により原油価格が高値圏で推移していることなどから、カナダドルは相対的に強含んで推移すると予想されます。

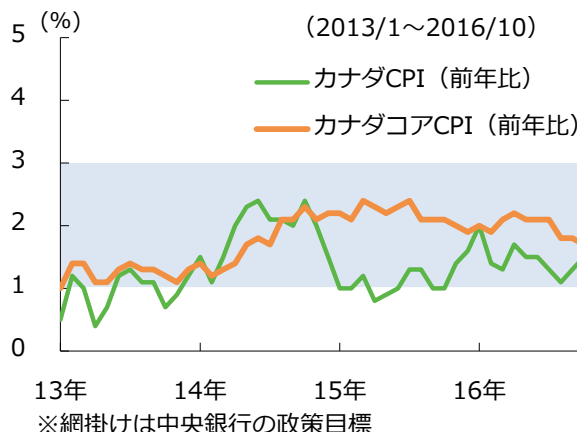
<政策金利の推移>



<カナダドルの推移>



<消費者物価指数>



出所：Bloomberg